



日本共産党大田区議会議員

大竹辰治 ミニレポート

発行 大竹辰治事務所

日本共産党 区議会控室

大田区蒲田 5-13-14

電話(5744)1477

事務所 大田区西蒲田5-9-12

電話(3735)2611

自宅 大田区東矢口3-11-19

電話(3736)4202

E-mail: tootake@apricot.ocn.ne.jp

http://tootake.jcp-ota.jp

コロナ禍から区民のくらし・営業を 優先する区政に転換を提案

第三回大田区議会定例会（9月10日～10月8日）が開かれ、一般会計第6次補正予算が出され、党区議団はコロナ禍の中で苦しむ区民・中小業者支援の観点から賛成しました。（下図参照）

利用しやすい指定保養施設・ 介護保険事業の充実を

大竹区議は、決算特別委員会で改善を求めました。

指定保養施設は、直営施設の伊豆高原学園ができ、補助日数が2日に、補助額も3千円が2千円に削減され、利用者数は、2016



年度20、797人を最高に毎年減少、今決算年度は4、127人となり、改善のために補助日数・額を元に戻すことを求めました。

介護保険は、今決算年度で中間年度となる第7期事業では、要支援者に自治体の裁量で行われる総合事業が本格的に始まり、予算額でも決算額も毎年減っている状況が続いています。それは、介護事業者が支援について原則1年間と期間を決めて卒業・終了とし、サービスの切捨てが原因と指摘し、第8期事業で切捨てを行わない様充実を求めました。

介護事業所緊急アンケート を実施しました

党区議団は、今年8月に区内介護事業所に緊急のアンケートを実施しました。

短期間で1割以上の事業者の方から返信のファックスを頂きました。その内容もコロナ禍のもとで事業者の皆様の切実な声が記入されていきました。（詳細は裏面参照）

法律相談

顧問弁護士による法律相談です。

お気軽にご利用ください(毎月第2水曜日)

11月11日・12月9日

午後1時～3時

場所 大竹辰治事務所(西蒲田大城通り)

事前にお電話くださいTEL (3735) 2611

区民要求が実現 (6次補正予算)

- 大学進学・在学生臨時給付型奨学金の創設(今年度のみ)
- 高校等給付型奨学金の対象者の臨時拡大(今年度のみ)
- 感染患者受入医療機関への支援
- 保育園・児童館・幼稚園、小中学校・特別支援学校へ支援
感染症対策用備品、保健衛生用品等に係る経費助成
- すこやか赤ちゃん訪問
- 子ども食堂推進事業に対する拡充(1施設170万円に拡充)
- 区内小中学校への「学習指導サポーター」の設置
- 空調等操業環境の向上への取り組みに支援
- 大田区感染拡大防止協力金(都協力金に10万・5万円増)

介護事業所緊急アンケート集計結果について

収入減など厳しい事態が反映

1、概要

実施時期 2020年8月
アンケート発送数 596
回答数73 (回答率12・2%)

4、通常時と比較して、収入は減りましたか

変わらない 23
減った 45

2、サービス事業所種別(重複有)

特別養護老人ホーム	1
通所介護	23
グループホーム	3
老人保健施設	3
通所リハビリ	3
有料老人ホーム	8
訪問介護	16
訪問看護	5
ケアマネ事務所	21
福祉用具貸与販売	3
訪問入浴	1
地域密着型通所介護	5
障害者相談支援事業	3
無回答	3

3、コロナ感染予防等のために、休業しましたか

はい 9
いいえ 64

5、コロナ感染拡大で、困った事はどんな事ですか(主な意見)

衛生用品(プラスチックグローブ、消毒液、マスク、ガウン等)が不足・高騰している
 (通所者の)利用自粛による状態低下、(入所者の)外出・面会禁止でストレスになっている
 いつ感染者が出てしまうかわからない恐怖・ストレスを抱えている
 テレワークが困難で業務がスムーズにできない
 売り上げが減少している
 職員の給与補償、人材確保に困難を生じている

6、コロナに関係なく、普段から困っている事は何かありますか(主な意見)

人手不足、職員募集をしても応募

募が(少)ない

介護報酬が減り続けている

家族の理解をなかなか得られず、ケアプランがスムーズに実施できない
 書類作成等事務作業が多過ぎ、本来の業務時間が十分取れないことがある

要支援の方々で大田区のみが卒業制度がある
 認定結果が出るまでに時間がかかり過ぎる。がん末期は特に2週間程度で

7、お困りごと、行政に対する要望があればお書きください(主な意見)

必要な物品の支援が少ない(アルコール、プラスチックグローブ、マスクなど)
 介護人材の処遇改善。一時金で従業者が納得できるとは思わないでいただきたい
 総合事業の介護報酬を以前の水準に戻してほしい
 書類業務に追われ支援に集中できないので、簡略化・オンライン化してほしい
 介護保険の現状を知らなすぎ

卒業の制度が大田区のみは平等ではないか
 コロナ感染で医療機関が大変なのはわかるが、それと同じくらい我々も大変。医療機関のみ色々な面で優遇されていることに疑問を感じる

介護保険情報VOL・842はコロナ感染予防で収益が減った事業所に対しての救済だが、ご利用者が負担するのはおかしいと思う

8、利用者のみなさんから事業所に寄せられる要望がありましたら、お書きください(主な意見)

職員、入居者のPCR検査をしてもらいたい
 早く安心して外出できる生活に戻りたい。自由に外出・外食したい

介護保険の書類が多く、ルールがわかりにくい
 卒業の制度が、大田区より見捨てられたように感じている

要支援の方が今後も介護予防サービスを継続して利用できるようにしてほしい
 コロナ禍の中、感染が怖くてヘルパーを使えないが、使わないと生活ができない